2025.12.18 会長時間より　「ロータリーの二面性」

創立会長　諏訪昭浩

【ロータリーの二面性】

今日は「ロータリーの二面性」という話をします。よく、ロータリーを一言で言うと、という質問を耳にしますが、これは誤解の元になる愚問だと僕は考えています。ロータリーは、ロータリアンとクラブという世界と、もう一つは国際ロータリーすなわちＲＩという世界と、2 つの世界があり、それが併存していることを理解しないと理解できません。

まず、ロータリアンとロータリークラブの世界ですが、これはチャーターナイトの会長挨拶でも述べたように、ロータリーの本質に関わる重要な世界です。ロータリーの本質とは、各ロータリアンが自己教育を行って、人として、職業人として、また奉仕人として成長することです。そして、それを支援するのがクラブの役割です。当クラブでは、それを「成長支援委員会」が担っています。また、そのようにして成長したロータリアンが、人に優しくするという気持ち「奉仕の心」をエネルギーに、個人として、またクラブとして対外的奉仕を行うことも、この世界に含まれます。

そして、もうひとつが国際ロータリーの世界です。国際ロータリーはロータリー財団のもつ世界最大の資金力を利用して、世界中で大規模な奉仕活動を主導しています。私たちロータリアン、そして所属するクラブは、国際ロータリーのそのような活動にできる限り協力し、ロータリー全体の目的達成に貢献しなければなりません。

問題なのは、近年、後者の世界だけがロータリーであるとの大きな誤解が生じ、ひとつめの世界、すなわち、ロータリアンの自己教育とクラブの支援ということが伝承されにくくなっていることです。それゆえ、ロータリーは NPO 化したと言われています。これに関して、今日は、RI 指導者の言葉を 2 つご紹介します。

今からちょうど 20 年ほど前、2003－2004 年のグレン･エステス会長エレクトは、「ロータリーは世界最大の NPO である」と発言しましたが、このとき、ロータリーは NPO、つまり、非営利的な社会奉仕団体の方向に舵を切ったと言われています。この一方で、この年度のビチャイ･ラタクル会長は、グレン･エステス会長エレクトの発言に対して、次のように警鐘をならしています。

「ロータリーが世界中で人々を救ってきた事は誇るべきだが、所詮は外面的な行いに過ぎない。こうした奉仕の力の源となる『奉仕の哲学』が、何年にもわたって無視され、討議さえされていないことが問題である。今もこれからも、ロータリーは金看板である職業奉仕の倫理と慈愛の心を提唱していかなければならないが、残念ながらロータリーはこの最も重要なロータリー哲学の神髄をわすれてしまった。なんと恥ずかしいことであるか。」

ビチャイは、ロータリー哲学の伝承が長い間無視され、ロータリーがただの社会奉仕団体になる道を歩んでいることを懸念しています。20 年後の現在、悲しいかな、その懸念は現実化し、多くのクラブでは、難しいことはしなくていいしゃないか、とロータリー哲学の伝承を避ける傾向にあるようです。

このまま行くと、ロータリーは他の奉仕団体と何も変わらない、ただの奉仕団体になってしまうでしょう。今こそ、忘れてはならないのは、ロータリー哲学の探求は、第一次的には各ロータリアンがすべきこと、そして、それを支援するのがクラブの役割であることです。RI の目的達成に協力しつつ、ロータリーの本質を守るためにロータリー哲学をしっかり会員に伝承できるクラブ、良いロータリアンが育つ保育器のようなクラブになるよう、皆さんと力を合わせていきたいと思っています。